

127 美術品の保存と修復を支える和紙（2022 年 9 月 8 日）

先日、フランス産の材料を使って和紙作りをするフランス人夫妻をご紹介します（*）。彼らは、和紙の特徴は、軽くて丈夫なことだと教えてくれました。実は、和紙は、ルーブル美術館を始めとする世界の美術館で、美術品の保存や修復のために使われています。ルーブル美術館グラフィックアート部門の修復工房を訪問して、和紙が美術品の修復に使われる様子を見学させていただきました。

グラフィックアート部門は、デッサンや版画など紙を使った作品を所蔵していることから、作品の保存や修復のために和紙を使っています。作品を閲覧するときに直接作品に手を触れないようにするために、作品を和紙に貼り付けて縁を作ります。また、作品の傷んだ部分に和紙を張って補強することもあります。世界の美術館では 1980 年代から和紙を使い始め、1990 年代以降は美術品の修復に和紙を使うことが一般的になったそうです。



ルーブル美術館では、越前和紙と高知県で生産されるひだか和紙（写真右）を使っています。前者は、人間国宝の岩野市兵衛さんが作る手漉きの和紙が選ばれました。後者は、機械で作る和紙ですが、世界で最も薄い紙と言われている。



© ひだか和紙/HIDAKA WASHI



ます。なぜ、和紙が美術品の修復に向いているのか尋ねると、和紙の材料となる植物の繊維が長く、手漉き和紙を作るときには、紙の材料を簀桁（すけた）と呼ばれる道具の上で前後左右に揺らすため、長い繊維が絡まって丈夫になるのだそうです。世界各国で紙が作られていますが、繊維の長い植物を使った紙を生産するのは、日本と韓国に限られるとのこと。紙に糊を塗



布するときには、日本製の刷毛が使われています。美術品の保存と修復には、日本の伝統的な技術や道具が用いられています。

日本人の日常生活ではパルプを使った洋紙が使われており、和紙を使うことは少なくなりました。和紙が、世界の貴重な美術品の保存や修復のために使われていることは、日本でもあまり知られていません。和紙作りという日本の伝統技術とともに、貴重な美術品が後世に引き継がれていくことを願います。

(*)

116 古くて新しい和紙

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100547367.pdf>